

## 第三セシウム吸着装置（SARRYⅡ）の運用開始について

2019年 8月 7日

The logo for TEPCO (Tokyo Electric Power Company) is displayed in red, bold, uppercase letters.

---

東京電力ホールディングス株式会社

## ■ 概要

- SARRY II の設置工事においては、2018年12月4日に使用前検査を完了し、使用前検査終了証を2019年1月28日に受領した。
- その後、装置の更なる性能向上を目的として、新規吸着材の確認運転・評価を実施し、7月12日より運用を開始した。
- 通常は低流量(360m<sup>3</sup>/日程度)で後段設備への影響を考慮した合理的な運転とするが、大雨時など処理流量の増加が必要な際には、速やかに定格流量(600m<sup>3</sup>/日)に変更を行い、運転を実施する。

### 確認運転結果

流量	水源	入口Cs-137濃度 〔Bq/L〕	出口Cs137濃度 〔Bq/L〕
(定格) 600m <sup>3</sup> /日	PMB	3.2×10 <sup>7</sup>	6.3×10 <sup>3</sup>
	HTI	4.4×10 <sup>7</sup>	1.8×10 <sup>4</sup>
(低流量) 360m <sup>3</sup> /日	PMB	3.2×10 <sup>7</sup>	5.9×10 <sup>3</sup>
	HTI	3.5×10 <sup>7</sup>	4.0×10 <sup>3</sup>



■ 滞留水処理および建屋滞留水浄化の加速化により、建屋貯留リスクの早期低減が実現可能

【処理容量の増加】

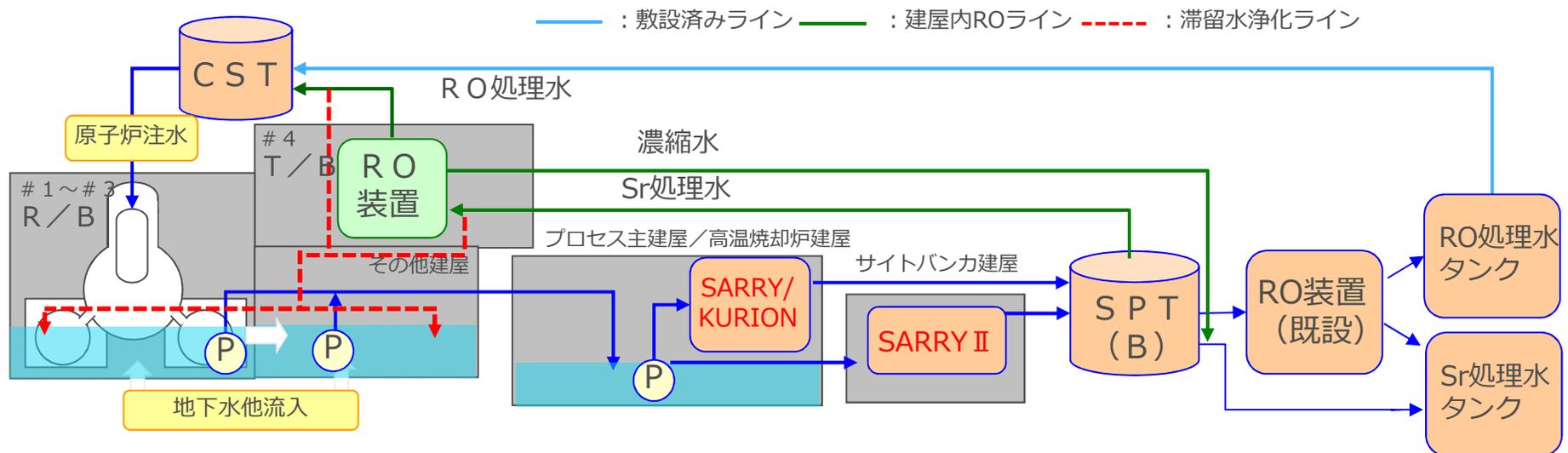
- 地下水他流入量低下に伴うSARRYの余剰能力を建屋滞留水浄化に充当することを計画していたが、SARRY IIの運用開始により浄化容量が増加（+360~600m<sup>3</sup>/日）
- 従前に対し、台風時等の集中降雨時における建屋滞留水の移送（処理）量が増加

【稼働率の向上】

- 滞留水処理装置のメンテナンスや、設備故障時、定期的に行っている吸着塔交換作業等においても、滞留水処理設備が多様化となったことで滞留水処理継続が可能。

【運用幅の拡大】

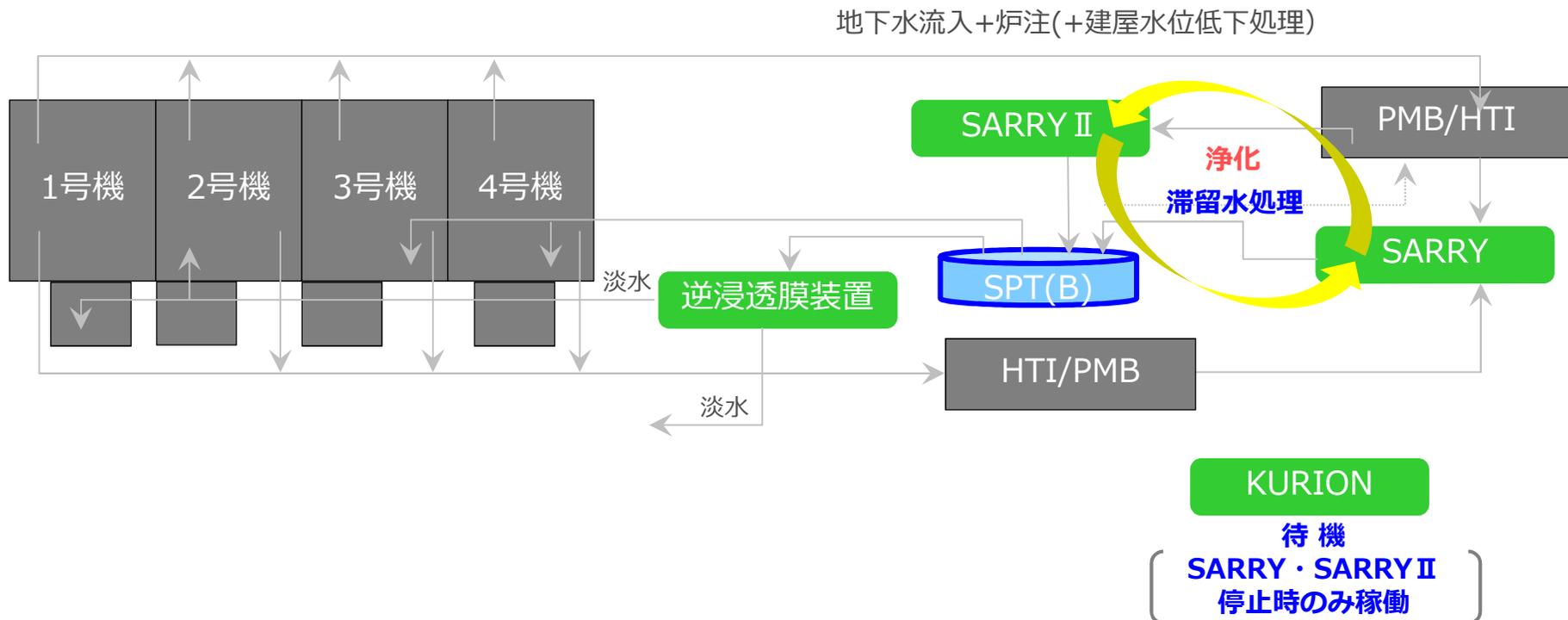
- 異なる建屋の滞留水を同時に処理ができることで運用の幅が広がり、今後の建屋水位低下作業において、状況に応じた柔軟な対応が可能。



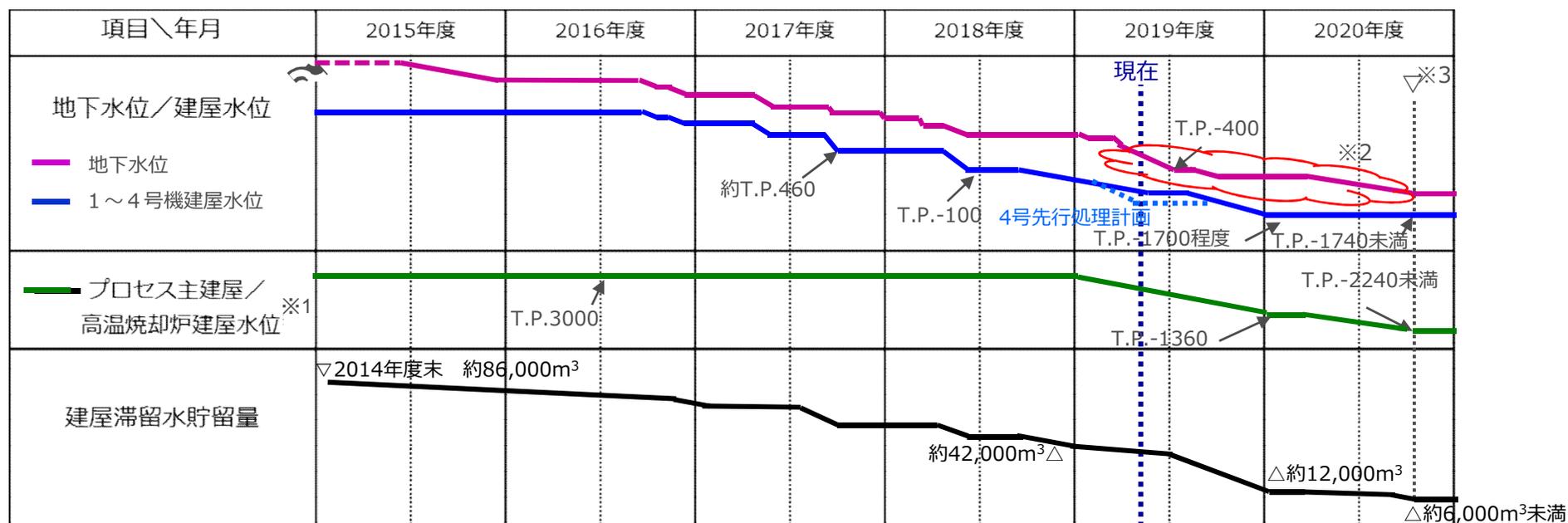
## ■ SARRY・SARRY II・KURION設備稼働方針

- 滞留水処理設備が多様化となったことでSARRY・SARRY II 両設備を用いて、浄化ならびに建屋滞留水処理（水位低下）運転を実施する
- メンテナンス等により、SARRYならびにSARRY II 両設備が停止となる場合に限り、KURIONを稼働運転とする（通常、KURIONは待機状態）

### 系統概略図



建屋滞留水放射性物質量の推移



- ※1 プロセス主建屋の水位を代表として表示。また、大雨時の一時貯留として運用しているため、降雨による一時的な変動あり。
- ※2 サブドレンは最も水位の高い3号機R/B南東三角コーナーと規定の水位差を維持したまま、地下水流入量を評価しながら、建屋水位の低下を計画。水位差拡大に伴い流入が増えた場合は、建屋水位低下を中断。
- ※3 循環注水を行っている1~3号機原子炉建屋を除く建屋滞留水処理完了